

2024年12月

承認番号	
研究課題名	ヘリコバクター・ピロリ便中抗原検査と胃粘膜萎縮度診断を併用した新方式の検診 「胃がん予防検診」についての検討
研究の 意義・目的	胃粘膜へのピロリ菌感染が最も強い発がん因子であることが明らかとなり、近年の胃がん検診では萎縮性胃炎を指摘し除菌に導く配慮（1次予防）が求められている。その試みとして血清ペプシノーゲンとピロリ菌抗体価を用いたリスク層別化検診があるが、自然消失例の扱いや除菌要否の決定に難点を有する。当院健診センターではこの欠点を補うべく、ヘリコバクター・ピロリ便中抗原検査と胃部X線検査または上部内視鏡検査による胃粘膜萎縮度診断を併用した新しい方式の「胃がん予防検診」を2023年4月から実施している。本研究では、その実施状況と成績に基づき、得られた成果と課題点につき検討します。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日～ 2030年3月
研究協力を お願いしたい方	2023年4月以降に当院健診センターの巡回健診、人間ドックを受診された18歳以上の全ての方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	受診の過程で得られた下記の情報を本研究に使用します。 1) 年齢、性別、検診を受けた地区と期日 2) 過去のピロリ菌関連の検査歴、除菌治療歴、除菌の結果 3) ヘリコバクター・ピロリ便中抗原検査の結果 4) 胃部X線検査または上部内視鏡検査による胃粘膜萎縮度診断の結果 5) 検診の最終判定区分 6) 検診後の経過、除菌治療の有無と結果、発がんの有無、予後 7) 検診実施の上で生じた課題点
研究の方法	上記のデータから、「胃がん予防検診」の受検率、萎縮性胃炎の有病率、ピロリ菌陽性率、除菌治療の受療率、除菌成功率、予後などを検討し、検診の有効性を評価します。
資料・情報の他 機関への提供	本研究は特定の個人を識別できない形に匿名化したデータを用いて解析を行います。研究成果は学会や論文等にて発表予定です。
試料・情報を 管理する責任者	旭川厚生病院 健康管理科 医師：大村 卓味
本研究の 利益相反	利益相反の状況については研究者が倫理委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をし たくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。 また、研究への協力を断っても診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	JA 北海道厚生連 旭川厚生病院 健康管理科（担当者氏名）大村 卓味 電話番号：(0166) 33-7171